マテリアリティ（重要課題・テーマ）

価値創造の鍵となるテーマに重点的に取り組む

旭化成は「世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献します」というグループミッションを掲げ、「持続可能な社会への貢献」と「持続的な企業価値向上」の好循環でこれを追求していくことを目指しています。その価値創造を継続していくうえで鍵になるのが、マテリアリティとして定めている18の重要課題・テーマです。これらはグループビジョンと直結する「健康で快適な生活」「環境との共生」、事業の土台となる「基盤的活動」、そしてこれらすべてに関わる「前提となる最重要事項」の4つから構成されます。経営計画における施策と連動させながら、マテリアリティに積極的に取り組んでいます。

特定プロセス

マテリアリティは、下記のプロセスを経て2017年度に特定しました。経営環境の変化に応じて見直しを図っており、2021年度には「脱炭素社会への取り組み」と「循環型社会への取り組み」を最重要テーマに加えました。

課題の特定
国際的なガイドライン、ESG評価機関の評価項目等を参考に、社会からの要請、当社のミッション、ビジョン、バリューに照らし、課題を特定しました。

▼

影響度判定
社会と当社双方にとっての影響度を評価し、2軸でのマッピングを行いました。

▼

妥当性評価
各部門責任者による協議、他社とのディスカッション、社外取締役へのヒアリングなど、多様な視点での検討を行い、妥当性を確認しました。

▼

審議と承認
経営会議等で議論を重ね、取締役会にて承認しました。

世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献

	前提となる最重要事項	健康で快適な生活	環境との共生	基盤的活動
	旭化成が社会から信頼され、グローバルに事業を継続していくための前提です。	旭化成は、「『健康で快適な生活』と『環境との共生』の実現を通して、社会に新たな価値を提供していきます」というグループビジョンを掲げています。事業活動を通じて社会課題の解決に取り組むことで、世界の人びとの“いのち”と“くらし”に貢献することを目指しています。		時代に応じ環境や世の中の価値観が激しく変化する中で、事業が持続的に成長していくための旭化成の土台に関する活動です。
マテリアリティ項目	●コーポレートガバナンス P.78–85 ●コンプライアンス・誠実な行動 P.90 ●人権の尊重 P.89 ●安全・品質 P.88	事業として目指す ●健康・長寿への貢献 P.44–45 ●安心で快適なくらしへの貢献 P.38 P.41	●環境貢献事業の推進 P.53–54 KPI：GHG削減貢献量 ●脱炭素社会への取り組み P.55 KPI：GHG排出量 ●循環型社会への取り組み P.56 ●水の汚染防止 ●大地の汚染防止 汚染防止と資源循環 ●生物多様性への配慮 生物多様性保全	●健全なサプライチェーンの確保 P.89 ●人財の確保・育成 ●DE&Iの推進 P.61–65 KPI：高度専門職人数・女性管理職人数／比率 KPI：デジタルプロフェッショナル人財数 ●ステークホルダーとのコミュニケーション P.92 ●リスクマネジメント P.86–87 ●社会貢献活動 社会活動

非財務KPIとその進捗については、P.95非財務ハイライトをご覧ください。